

都公中事

Kaihō

編集発行

平成17年10月11日発行 第361号

東京都公立中学校事務職員会

代表 戸上輝世(足立区立西新井中)

編集 佐藤重雄(板橋区立加賀中)

連絡先 〒173-0003 板橋区加賀2-19-1
03(3964)1954

八木(八王子) 横山(江戸川) 吉野(清瀬)

大川(葛飾) 平井(東村山) 田村(荒川)

福田(足立) 森田(青梅)

第37回全国公立小中学校事務研究大会 (兵庫大会) について

去る7月27日から7月29日、4千人を超える参加者をえて、第37回全国公立小中学校事務研究大会兵庫大会が、神戸市を中心に開催されました。東京中からも約40名が参加し、熱心な研究報告や熱い討議に心寄せられたことと思われます。

第35回山口大会及び前回第36回高知大会は大会期間中に台風が接近し、これからの学校事務制度の改革の嵐が、迫っているのを予感させる大会でした。そして、今大会は、大会前日、全事研総会当日に台風の襲来、まさに今改革の真っ只中で行なわれる大会と感じた方も多かったと思われます。

実際、これをお読みの方々には御存知の方も多いと思いますが、全事研会長が4月1日付で学校長となり退任したため、急遽この大会は副会長が会長代理となり、総会及び大会の運営を行ないました。また、将来を考え、全事研規約の一部改正も行なわれました。また、時期会長も決まりました。さらに分科会では高知大会で賛否両論あった、特別分科会のグループ討論(参加者が受け手として参加するだけではなく、自ら発信者として参加する方式)を、取り入れる分科会が幾つかあったこと、次回神奈川大会が、2日間日程で開催されることが正式に決定したことなど、様々な変化があった大会でした。

大会そのものは、台風一過の中、すばらしい天候に恵まれ、行政説明・全体研究会・分科会・大会報告・そして記念講演、どれをとっても内容が充実していてすばらしいものでした。また、会場の展示物も興味深い内容のものであったことを、付け加えご報告しておきます。詳しい内容については、実際に参加された方のレポートを御覧下さい。

学校事務の将来が、この大会のように、改革の嵐(そよ風?)が過ぎた後、すばらしいものとなるよう、これからも頑張っていこうと感じさせる大会でした。

神戸大会に参加された会員の方から感想文を頂きました。次ページに掲載いたしましたので、ご覧ください。

神戸大会に参加して

八王子市立中学校 S

神戸は40年も前の高三の時友人と歩いたきりで、それ以来なぜか機会がなく過ぎてしまった。阪神淡路の大震災からもちょうど10年だし、復旧ぶりも見てみたい。そんな思いで出かけた7月27日の昼、大会会場に到着したわれわれ一行を、神戸市立港島小学校6年生139名が「港島太鼓」で迎えてくれた。一生懸命叩き歌う子どもたちを見ていると、「大丈夫だよ、がんばってるよ」という思いがびしびし伝わってきて、目頭を熱くしてしまった。

私の関心

さて分科会は本部研究分科会「学校情報の積極的な提供と学校事務」を選んだ。『学校運営協議会の法制化や学校選択制の導入など、変わり行く学校と地域の関係を背景に、学校事務職員が「経営支援スタッフ」として「情報」にどう関与していくか』を研究する内容であろうと思う。私としても、そういう時代背景のなか、情報にどのように関わるべきか整理や確認をし、今後の仕事の糧としたかった。もう少しこまかくいうと、次のような点を期待してきた。

一つは、文科省が「これからの事務職員像」の中で情報への関与をどう考えているのか。もう一つは具体的にどのような参画例があり、どのような成果があり、苦労があるのか、気が付いたのはどんなことが、他の事務をこなしながらどう関与したのか、一人あるいは二人しかいない中でどこまでできたか、地域とどういうふうに関係交流したのか、など具体的事例の発表であった。さらにもう一つ付け加えれば、外部の識者が、事務職員の学校における情報関与を（ひいては学校事務や事務職員を）どう見ているのか知りたい、などである。以下参加しての雑感を書いてみた。

分科会の論議と私の感想

第一の点では、情報ネットワークや情報管理システムづくりに積極的に参加し、学校経営を支えるとともに、学校事業の成果のPRや地域交流や生涯学習の場としての学校づくりの中で地域と行政の接点としても活躍する事務職員像が浮かび上がってくる。

第二の点では、5つほどの事例があげられ、それなりに事務職員の苦労も推測できるのだが、学校全体として情報発信に盛り上がっているようにも見受けられるので、事務職員がそこにどのように切り込んでいったのかなど、もう少し生々しい声も聞きたかった。

第三の点では、まず学校が情報を「提供」するのではなく地域と「共有する」という観念を教えられた。また情報のやり取りの「制度づくり」ではなく、地域との交流や人間関係の構築が先という話や、相手が何を知りたいのか発信する内容をよく考えたり、関心を掘り起こすなど双方向の交流をすすめるアイデアも大変参考になった。

また、**パネルディスカッション**では

1, 災害に対して

防災計画への関与 予算執行の順位付けに安全や情報管理対策を優先させる

災害時に、学校の安全確保と避難者対応とのバランスをとるなど、全体を見渡す危機管理のプロとして

の役割 学校施設に関して、自宅と思ってウイークポイントを探したり、地域の建築家に相談するなど。

2, 不審者対策では

地域とのつながりを図り、顔がわかる地域づくりを進める 地域の機関（交通機関や官公署・企業など）を含む防災防犯会議づくり 在校生や卒業生情報なども知っておく（在校生の写真と連絡先をパウチして事務室に置いておくなど） 学校内外のスペースを活用し、地域の人が誰かしら立ち寄っていて不審者が入り込みにくいデザインの施設作りなどのほか、情報セキュリティのプロとして情報管理責任者の役割なども提起された。ただ防犯カメラに対しては「いったい誰が見るんだ」と否定的のようだった。

また全体の司会をされた女性新会長(千葉)の運営やまとめ方、さらに声までいいのには感心させられた。

しかしながら今、学校全体が日々騒然としつつ過ぎていき「子どもと接する時間が取れない」と嘆く教員も多いし、われわれも、貴重な仲間である市や区の職員が引き上げられたり、学校安全のための受付業務など新しい仕事が増えている。そういう中で、情報管理チーム作りを働きかけたり、情報の受発信や整理・分析・蓄積などの作業を進めるのは、教員にとってもわれわれにとっても、非常な負担になる。「難しい」というのが率直な感想だ。ただ毎月校内で「事務だより」を発行している経験からいうと、必要な情報の整理や分析、相手に伝わる表現や双方向の追及など大変参考になった。これらのことを、地域とのITネットワークや校内LANなど、「学校として」生かすべきであるというのは正しい。それにどう関わるのか。すでにタッチしている方々もおられると思うので、支部でも論議を深めたい。

最終日

関西で有名な桑原征平氏が、自らの被災体験と取材での被災者やボランティアとの交流を彼一流の機関銃のようなしゃべりで「人間最後は思いやりやねん」と結ばれた。あっという間の短い時間ではあったが感銘深いものがあった。

次に、当時の知事、貝原俊民氏による「震災時の留意事項」を大学の講義のようにお聞きした。「幸い今までは学童が在校時の地震はなかった」ということだが、ほんとにもし在校時であったらどうなるのか、ハードとソフトの両面で対策を充実させるとともに、避難所としての学校運営に、われわれも覚悟して臨まなければならないことを痛感させられた。

終了後、北野の異人館通りに上り、「うろこ館」の窓から神戸の町を俯瞰すると海や港が間近に見え、作家の陳舜臣さんの言うとおり、ほんとに奥行きのない街であることを知った。そのまま新神戸の駅まで歩き、新幹線で帰京した。夜9時には自宅に着いてしまった。

第37回全国大会兵庫大会に参加して

小金井市立中学校 K

去る7月27日~29日までの3日間に大震災から10年が経過した兵庫県神戸市で全国大会兵庫大会が開催されました。大会テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務のもと、特集 - 学校情報の広報・公開

と責任 - 子ども達が安全に生活できる元気でいきいきとした学校づくりのため、地域との連携を基本とした新しい学校経営に参画するとともに、教育を支援する学校事務を積極的かつ主体的に推進し、もって学校教育の充実と発展に寄与する」ことを目的に開催されたものに参加しました。

普通は、研修等受講すると、リフレッシュしたような感覚になります。今回も2日目の第1分科会(奈良支部)の方々による朗読劇やミニ講演で、事務職員の学校経営参画の具体策や学校評価について、日々の仕事に流されることなく、主体的な仕事をしなければ！と反省しきりになりました。

ところが、今回はさらに、教育現場での学校事務職員がいかに学校経営に関わり、教育推進に貢献できるかを厳しく問われているとのこと。学校や教育に求められている社会的ニーズに確実に応え、“安全で安心な学校生活の保障”と“子供達の学力向上の保障”をしていくため、相当の努力が必要であることです。等々、個人の力では、どうしようもない問題が山積していることに目を向けさせられました。震災から10年後の神戸において、事務職員としての役割を(義務)教育改革の推進の名のもとに、流されることなく、ひとつひとつ、学校内での教職員や市内の都事務職員らと情報の共有化を計り、コミュニケーションを大切にしながら対処していかなければいけないと、強く感じた研修でした。

全国大会に参加して

墨田区立中学校 Y

朝早く起きて、神戸大会に行ってきました。初めての参加です。全事研の事がよくわかるかなとおもい、2日目は本部研究分科会に参加しました(3日目は都合で参加できませんでした)。2日とも「情報の発信」がテーマでした。

学校が情報を地域に発信することで、学校情報を地域(保護者)と共有する。できること、できないことなど学校の「カッコワルイ」ことも発信する。そうすることで地域(保護者)を学校に参加、参画させる。地域にも「学校力」をつけさせる必要がある。それが、地域に開かれた学校で、安全な学校になる。(塀を作るだけでは安全な学校にはならない。)事務職員には、地域と、学校を結ぶコーディネーターになってほしい。というような発言がパネリストからありました。

毎日の私の仕事とは、あまりにもかけ離れたことで、困惑してしまいました。地域に発信している情報は、給食費の催促だけ。学校のホームページの作成にも参加していない。どのように仕事につなげていくのか…。他に印象に残ったこと

長岡市の震災時に、学校のホームページが、情報を地域に発信するのに有効だった。

ホームページへのアクセス数が激増したとのこと。

共同実施・・・。いろいろなお知らせ(学校情報)を2,3の中学校、小学校で共同作成し、地域に配布(発信)する(公民館などにも置いてもらう)。「地域に開かれた学校」には必要なことなのでしょう。

文部科学省行政説明で、「・・・力」(人間力、教師力、学校力)という表現を使っていた。強くなれということなのでしょう。

帰りの新神戸駅で、下を流れる川で子供が、気持ちよさそうに遊んでいるのを見て、羨ましく思いながら帰ってきました。

接 遇 研 修

8月8日に国立オリンピック青少年センターで開催された学校事務研修会「接遇」が開催されました。概要は次のとおりです。

渋谷区代々木神園町にある国立オリンピック記念青少年センターにて、ベストセラーになった「社会人として大切な

ことはみんなディズニーランドで教わった」の著者香取貴信氏を迎えての研修会が行われた。

講師の紹介 高校一年生の時から8年間、東京ディズニーランドでアルバイトをした時の体験をメルマガ「テーマパークが私の学校」に掲載。昨年それらの内容を本にまとめ「社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった」を発行する。現在、社員教育や運営を支援する会社(株)SHUU 研究所勤務のかたわら(有)香取感動マネージメントを設立。

詳しい内容については、近いうちに会報臨時増刊を発行する予定ですのでご覧ください。

【各委員会事業報告】

調査研究委員会

7月に実施しました「個人情報保護に関するアンケート」へのご協力ありがとうございました。おかげさまで、190を超える回答が寄せられました。回答にご協力いただいた会員の皆様、支部のとりまとめをされた支部長様、本当にありがとうございました。

このアンケート回答を、今後発行予定の個人情報保護に関する事項をまとめたCD-ROMの作成に活用し、よりよいものを作り上げる所存です。また、これ以外にも個人情報保護に関する有用な情報・疑問等ありましたら、ぜひ調査研究委員会にご一報ください。微力ではございますが、可能な範囲で対応していきたいと考えております。

今後とも調査研究委員会活動へのご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

研修委員会報告

研修委員会主催第2回研修会(接遇について)を平成17年8月8日(月)午後2時より、国立オリンピック記念青少年センター研修棟において開催いたしました。『社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった』の著者、香取 貴信氏を講師にお迎えし、「私の体験したディズニーランドマジック・感動を呼ぶサービス」をテーマに、接遇に最も成功し、徹底しているディズニーランドのノウハウをうかがいました。参加者は113名でした。

研修委員会では第3回研修会を検討しています。詳細が決定しだい、開催通知等でお知らせいたします。多数のご参加をお待ちいたしております。

また、より良い研修会を開催するために、ご希望・ご意見等を研修委員会ならびにお近くの研修委員にお寄せください。

広報委員会報告

会報第361号を発行いたしました。今回は、第37回全国大会兵庫大会、学校事務研修会を中心に編集いたしました。どうぞご覧ください。

これからも会員の皆様によりよい情報提供に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

今後の予定

361号	本号		
362号	11月	発行予定	小中高研究大会案内、研修会主催の研修会等
363号	1月	発行予定	都公中事研究大会の案内等
364号	3月	発行予定	都公中事研究大会の報告等
研究集録	2月10日	発行予定	都公中事研究大会「研究集録」大会当日
小中高研究大会「記録集」	3月	発送予定	

支部の研修・研究報告

足立支部

足立には38校(平成16年度現在)の中学校があり、A～Fの6つのブロック委員会で研究発表、研究研修、広報誌・福利厚生を3つを分担し、それぞれの活動を行っています。分担は輪番制となっていて、3年ごとに研究発表の担当になり、担当でない年は発表準備として研究研修活動を行っています。

また、小学校事務職員会と共同で区立学校事務職員会を組織し、研修活動・区教委との連絡会等を行っています。

平成16年9月に、区教委より突然の「区職員引き上げ」の提案があり、平成16年度82名の会員数が平成19年度では50名程度になることが予想されます。会員数の減少は会の運営にさまざまに影響し、組織の変更が必要になると思われます。

では、平成16年度の足立支部研修・研究報告等をさせていただきます。



1. 中学校事務職員会研究発表会(平成16年11月25日)
 - Dブロック「さあ、できることからはじめよう循環型社会」
 - Eブロック「こんなときどうする? - 新任教諭のための手引き - 」
 - 研究研修(平成17年研究発表)
 - Aブロック「個人情報保護法に係る諸問題」
 - Fブロック「文書管理」
2. 区立学校事務職員会講演会(平成17年2月28日)
 - 「学校教育のあり方と事務職員の関わり方」講師:岩上直人氏
3. 区教委・学校事務連絡会
 - 月1回(年11回、8月を除く)
4. 手引改定委員会
 - 「足立区学校事務の手引」の追記・訂正版の発行
5. 実務研究会
 - 新採3年以内、足立区2年以内の方の研究・研修会
6. ファイリング委員会
 - 庁内LAN接続を踏まえたファイル基準表の作成・配布
7. その他
 - 広報誌「轍」第30号の発刊、歓送迎会等



仲間だけに教えて

文京区編
(音羽界限)

～文京区の見どころ・味どころについて紹介します～

まず、見どころから…

文化をつなぐ坂道めぐり

文京区の地形は、武蔵野台地の東縁部にあたり、江戸川（神田川）や千川・藍染川（現在、両川とも暗渠化されている。）などにつくられた低地の部分と関口台・小日向台・小石川台・白山台・本郷台の五つの台地に分かれ、低地と台地をつなぐ勾配の急な坂と崖を形成している。区内には、名前や由来もある坂が百、名もなき坂は千百五十あり、都内でも坂の多い区であります。

音羽坂上に護国寺、胸突坂の脇の関口芭蕉庵、目白坂には……と、旧跡や文化財に事欠かない。坂の上り口や下り口、途中に設置されている案内表示は、名前の由来や坂にまつわるドラマや歌、詩などを誇らしく伝えており、文化をつなぐ坂道の興味は尽きない。

次は、味どころを…

築地魚がし ビック寿司

文京区音羽1 - 10 - 1 3945 - 2361 定休日 月曜日

営業時間 11:30～14:00 17:00～21:30

「お寿司を気軽に！お薦めできるレベルのネタしかおきません。企業・飲食店に水産物を卸す築地の卸の“直営”。」と、ビック寿司のパンフレットから

まずは、ランチ限定 ビックにぎり(10貫・お椀付) 850円

豆大福 くんだりんどう 群林堂

文京区音羽2 - 1 - 2 3941 - 8281 定休日 日曜日

営業時間 9:30～17:00(なくなり次第 閉店)

創業は大正初期。文豪が愛した大きな豆大福。赤えんどう豆の塩味と餡子の甘味のバランスが絶妙。

豆大福 1個 137円